

表紙写真について

前号の表紙写真がたいへん好評だったため、今号も引き続き宮教大写真部から作品を提供していただきました。

新聞を利用しよう

○図書館からのインフォメーション	2～3
○特集記事「新聞を利用しよう」	4～7
○学生の読書室	8～9
○私と図書館	10～12
○本学教員等著作寄贈図書一覧	12

図書館からのインフォメーション

図書館復旧作業へのご協力、ありがとうございました！

3月の震災時には図書館でも多くの資料が落下するなどの被害を受けました。復旧作業にあたって、ボランティアの方々を募集したところ、本学学生のみなさんなど連日たくさんの方が、ボランティアに来て下さいました。予想以上に復旧作業がはかどり、おかげさまで、5月2日より開館する事が出来ました。皆さまには大変感謝いたしております。

絵本コーナーを拡充しました。

1階の絵本コーナーの書架に余裕がなくなってきたこともあり、絵本コーナーを拡充しました。具体的には、全体的に入り口の方へ移動し、絵本用の書架を1列追加しました。また、テーブルといすをコーナーに合わせた白木のやさしい雰囲気のものに変えました。



夏休み中の開館時間

夏休み期間中は開館時間が変わります。

今年度は、8月29日(月)～9月30日(金)までが夏季休業となります。

夏季休業期間中は図書館の開館時間が変更となりますので、ご注意ください。

8月29日(月)からは、月曜日から金曜日の開館時間が9:00～17:00になります。

土・日曜日は、9月17・18日の入試実施日を除いて、10:00～17:00まで開館しています。

詳しくは、図書館HPの年間カレンダーをご覧ください。

図書館からのインフォメーション

夏休み中の長期貸出

夏休み期間中は図書館の貸出期間が長くなります。

《夏休み期間中は、学生の皆さんの図書館の貸出期間を延長します！》

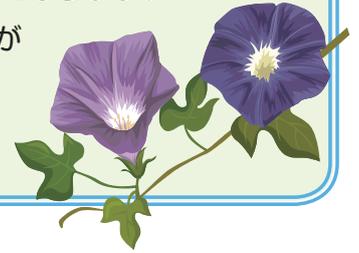
夏休み直前に借りたものから、返却期限が後期の授業開始日（10月3日）に延長となります。

具体的には、

学部1～3年生は、8月12日(金)貸出分から返却期限が10月3日(月)になります。

学部4年生・大学院1～2年生は、7月27日(水)貸出分から返却期限が10月3日(月)になります。

夏休み中はじっくりと読書を楽しんで下さい。



この夏、節電にご協力ください。

この夏、図書館でも節電に取り組みます。これに伴い、エアコンの利用を控えめにします。また、書庫（1階電動書庫、1階保存書庫、2階雑誌書庫、3階電動書庫）は常時消灯します。利用時に点灯してください。ご不便をおかけしますが、ご協力をお願いいたします。

リフレッシュコーナーをリフレッシュします。

1階リフレッシュコーナーの展示用の書架をスチール製のものから白木のやわらかい雰囲気のものに変えました。こちらのコーナーは布製の椅子に汚れが目立ってきたため、夏休み中にイスなどのリニューアルも考えています。さらにリフレッシュできるコーナーを作りたいと思っています。お楽しみに!!

Trick or treat.

ハロウィンかぼちゃを
育てています。

図書館の周りに植えました。
見つけたら応援してね。



新聞を利用しよう

テレビを見ない人は少なくとも、新聞を読まない人は案外多いかもしれません。ですが、東日本大震災で痛感したとおり、新聞の情報力は大きなものがあります。今回は、先生方に新聞を活用することの意義を解説いただきました。また、図書館で利用できる新聞についてもご案内します。

新聞を読むことの意味と、図書館の役割について

社会科教育講座 川崎 惣一

学校教育の現場では近年、教育活動に対して新聞を積極的に活用しよう、という試みがなされてきました。とりわけ今年度（平成23年度）より「NIE (Newspaper in Education)」がスタートしたことで、学校教員は、学校教育において新聞をどのように有効に活用していくかを考え、実践していくことが求められています。「NIE」とは、簡単に言えば、学校教育で新聞を教材として活用することです。もともとは1930年代にアメリカで始まり、その後、世界の60カ国以上で実践されています。日本には1980年代から導入され、全国で展開されるようになりました。そしていよいよ今年度から全国的に導入されたわけです。ですからこれからの学校教員は、生徒たちが新聞を学習の教材としながら学びを深めていくことができるように、学びのコーディネートを担うことが求められています。

こうした流れがある一方で、大学教員として痛感するのは、いまどきの学生たちはあんまり、いや、ほとんど新聞を読んでいないんだな、ということです。最新のニュースについて何も知らないわけではありませんが、マイナーな事件や出来事、とりわけ国際的な事件や出来事については、あやふやな知識しかありません。理由はさまざまで、もともとニュースにあまり興味がないとか、テレビは見るけど新聞を読むのは面倒だとか、最新のニュースはインターネットを通して知っているから問題ないとか、新聞を講読するのはお金がかかるから嫌だとか、さまざまな答えが返ってきます。要するに、「新聞を読まない

と手に入らないような情報にはさほど興味がない」ということのようなのです。

たしかに、テレビがあれば日々の主要なニュースの関連情報は手に入りますし、テレビの映像には大きなインパクトがありますから、それで充分わかった気になれる、ということなのでしょう。また、近年のインターネットの普及はめざましいのでウェブ上に多種多様な情報があふれていますし、新聞社のサイトもありますから、インターネット環境があれば情報には事欠きません。加えて、テレビやウェブ上で手に入る情報はほとんどが無料なのに新聞は有料なこと、コンビニや売店などに行かないと新聞が手に入らないことも、学生たちが新聞に触れる機会のない大きな理由になっているのでしょう。おまけに、新聞はある程度能動的に「読む」必要がありますので、「めんどくさい」ということなのかもしれません。

とはいえ私の考えでは、新聞は他のメディアと比較しても、信頼のおける情報媒体として非常に重要です。その理由としては、新聞に掲載された情報というのは一定のフィルターのかかった、ステータスをもった情報であるということ、言い換えればニュースソースとして一定の信頼をおくことができるということ、さらに、紙面として印刷された媒体であることから安定した情報源である（知らないうちに更新されてしまわない）ことがあげられます。ウェブ上では多くのサイトからさまざまなニュースが配信されていますが、新聞社が組織として情報に責任をもって

特集記事 「新聞を利用しよう」

くれるという安心感は、まだまだ貴重なのです。ほかにも、新聞ならではの、特集記事やシリーズ記事もあり、一般の個人では入手できない情報が紹介されていることも多いので、新聞の利用価値はまだまだ高いと私は考えます。テレビのニュースのように放送時間が決まっているわけではありませんから、望むときに自分なりのペースで読めることも、新聞の大きな長所です。

ですから私は、将来学校教員になりたい学生たちに、ふだんから新聞を読む習慣をつけてほしい、自分の知識を深め、問題意識を養うだけでなく、やがては生徒達への教育の素材として有効に活用して欲しいと思って、ゼミナールなど機会のあるたびに新聞を読むよう声をかけています。しかし、いまどきの学生にとって、とりわけ下宿・寮生活を送っている学生にとっては、新聞購読は敷居が高いようです。そこでいきおい、「新聞なら図書館で読めるのだから、図書館に行って読みなさい」ということになります。

一般論として、図書館というのは、教育・研究機関としての大学のコアとなるべき、非常に重要な施設だと考えられます。大学が高

等教育機関でありつづけることができているのは、大学において高度な知的営みが実践されていることが担保されているからですが、図書館に所蔵されている多くの書籍や雑誌は、これまでの学問上の成果の蓄積であり、これらは、学生たちが授業やゼミナールで学問的な興味関心を覚えた内容について研究を進めるための重要な礎なのです。

ところで、図書館の重要な役割として案外見落とされているのは、そこで新聞が読める、しかも複数の新聞を読んで比較ができる、ということです。当日の新聞が複数の種類閲覧できるようになっているばかりでなく、それぞれの新聞の過去数ヶ月分が保管されているので、最新のニュース報道を時系列に沿ってたどることもできます。

先にも書いたように、いまどきの学生たちは、新聞をあまり読んでいないようなのですが、学生たちがもっと新聞に触れる機会を持つことが出来るようにするのが、教育上の効果その他多くの理由から、大学の重要なミッションになっていると言えます。そしてそのために、図書館の果たすべき役割は非常に大きいと私は考えています。

震災について、新聞を通して伝える・考える

宮城教育大学非常勤講師・仙台市立太白小学校教諭 五十嵐 誓

「学校図書館メディアの構成」は、司書教諭の資格取得科目の一つで、私が担当した授業においては、学校図書館メディアを学習指導に生かす手法を実践的に培うことを目的としました。今年度は、全年次・専攻にわたる学生34名が受講しています。

学校図書館メディアの一つである新聞は、携帯性、記録性、具体性といった特長を有し、とくに「刻々と変化する社会を考える」という点において、教材として優れています。今回の震災においても、翌日には多くの家庭に新聞が配られ、避難所においても有益な情報手段として機能していたことは記憶に新しいことです。

被災した学生の心情に十分配慮しつつも、震災からの復旧・復興という日本社会におけ

る喫緊の課題について、授業として取り上げることは、この新聞の特性について具体的に理解できるだけでなく、自分たちが住んでいる社会の問題を解決する、という学習本来の目的についても触れることができると考えました。

手法としては、新聞を自分の問題関心に応じ切り抜き、壁新聞として再構成し発表する「スクラップ新聞」を採用しました。学生が取り組んだ「私が伝えたい震災」のテーマは、じつに多様でした。「津波防災の明暗」、「笑顔が希望



特集記事 「新聞を利用しよう」

に、「強いぞ！石巻」といった前向きなテーマが多く、「教育現場―復興への道のり」、「震災には負けない―震災被災地の子どもの姿」といった教育養成大学らしい発表もみられました。主体的に情報を取捨選択し、それを分かりやすく聞き手に伝えることの重要性に触れることができたのではないのでしょうか。

授業後の感想として、岩手県釜石市の出身の国語専攻1年多賀陽さんは、次のように書いていました。「(前略) 地元の震災に関する報道は、今でも胸がつかれそうになるが、決して忘れてはいけないことだと思う。私たちが体験したこと、学んだことを後世に伝えて

いくことが大切である。震災についての発表を聞いて、様々な視点から見直すことができた。

これを教師になったとき、伝えていきたいと思った。」。おそらく、宮城・東北における教育を語るとき、今後しばらくは、震災を抜きにしては語れないでしょう。数年後に、この地の教壇に立つであろう学生たちの、自己の「立ち位置」を考える授業に少しでもなったとしたら、これに過ぎる喜びはありません。



新聞対決コーナー新設

図書館では、学生の皆さんにもっと手軽に新聞に親んでもらいたいと、当日の新聞各紙の一面の読み比べができる“新聞対決コーナー”を入り口右手に設けました。

このコーナーには、図書館で購入している日刊紙のうちの6紙（河北新報・朝日新聞・読売新聞・毎日新聞・日本経済新聞・日刊スポーツ）の一面を両面コピーして掲示しています。

ぱっと見比べてもわかるのですが、一面で取り上げる話題は新聞各紙でかなり異なります。裏面には一面の下部をコピーしてあるので、天声人語（朝日新聞）や編集手帳（読売新聞）などのコラムも読み比べられます。

なお、当日の新聞紙面（本体）は、このコーナーのガラスの裏側、リフレッシュコーナーの白いラックに立ててあります。続きはリフレッシュコーナーでじっくりと！



図書館での新聞の利用法あれこれ

宮教大図書館で、現在購入している新聞（紙面版）は、

日刊紙⇒河北新報・朝日新聞・読売新聞・毎日新聞・日本経済新聞・日刊スポーツ・

The Japan Times

週刊紙⇒日本教育新聞・Asahi Weekly, 月刊紙⇒日本聴力障害新聞 です。

これらの新聞は図書館で1年間保管しています。当日分、当月分、前月分の新聞はリフレッシュコーナーに、それ以前のは他の場所で保管しています。利用法の詳細については図書館カウンターでお尋ねください。

リフレッシュコーナーの中では、当日分は白いラックに立てて、前日以前の当月分、前月分は木製の棚に横置きで置いてありますので、自由にご覧ください。

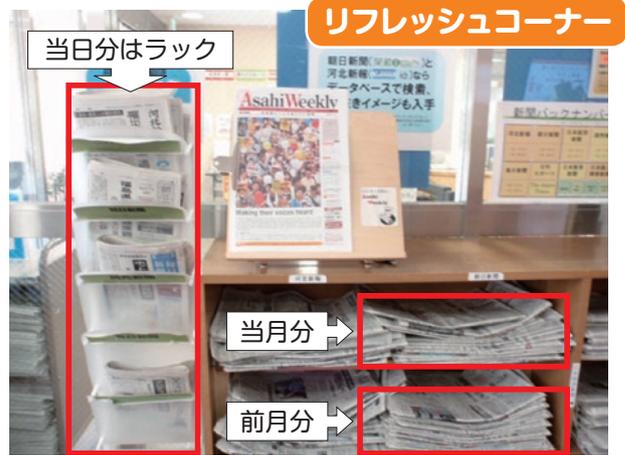
特集記事 「新聞を利用しよう」

このほか、朝日新聞は縮刷版で過去のものを見ることができます。1956年から現在分までが1階電動書庫に揃っています。

また、河北新報は、マイクロフィルムで1972年から1998年分まで見ることができます。マイクロフィルムとリーダーの利用についてはカウンターにお尋ねください。

さらに図書館では、新聞のデータベースも揃えています。図書館のHPからアクセスしてください。

宮教大図書館HP
⇒ 情報検索 ⇒ ◆新聞記事を探す



情報検索 > 新聞記事を探す

購入新聞リスト

附帯図書館で、現在購入している新聞は下記のとおりです。
前月分まではリフレッシュコーナーに、それ以前の発行1年以内のものは多目的読書室に保管しています。利用したい場合は、発行後1年を過ぎたものについては閲覧できません。
縮刷版や、下記の「新聞記事を探す」にあるデータベースをご利用下さい。

- ◆日刊紙: 河北新報・朝日新聞・読売新聞・毎日新聞・日本経済新聞・日刊スポーツ The Japan Times
- ◆週刊紙: 日本教育新聞
- ◆月刊紙: 日本聴覚障害新聞

新聞記事を探す

- 朝日新聞社
朝日新聞オンライン記事データベース「聞蔵Ⅱビジュアル」(学内限定)
聞蔵Ⅱビジュアルは、朝日新聞社が提供する国内最大級の新聞記事データベースです。明治・大正・昭和から現在まで130年分のすべての朝日新聞紙面を検索・閲覧すること
- 毎日新聞
1967年8月以降の主要ニュース記事検索もできます。
- 読売新聞
複数のニュース提供社のニュースを一画に検索できるなど、検索機能が充実しています。
- 日本経済新聞
- 河北新報
河北新報データベースKD(学内限定)
KD(カーデー)は、河北新報に掲載された記事を中心に、国際、国内のニュース等を検索でき、最大の特徴は、写真、イラスト、図などを含めた記事掲載時のままにイメージデータを再現している
- 日本教育新聞
日本教育新聞 記事検索データベース(学内限定)
「日本教育新聞」に掲載された教育情報を「キーワード」「キーワード」から検索し、関連記事を読むことも、カウンターにお問い合せください。
- 全国新聞総合目録データベース
国内の公共図書館、大学・地方公共団体などの所蔵を確認できる。

聞蔵Ⅱビジュアル

朝日新聞 1985- 週刊朝日・AERA 朝日新聞縮刷版 知恵蔵 人物 歴史写真

検索モード シンプル検索 詳細検索

対象紙誌名 朝日新聞 AERA 週刊朝日

キーワード 検索実行 クリア

AND OR NOT 関連キーワード参照 異体字を含めて検索

発行日 3か月 6か月 1年 全期間

検索オプション

検索対象 見出しと本文 見出し 本文

分類 参照

朝夕刊 朝刊 夕刊

面名 参照

本紙/地域面 本紙 地域面

発行社 東京 大阪 名古屋 西紙 北海道

聞蔵Ⅱビジュアルは朝日新聞のDBです。創刊時の縮刷版から当日の紙面まで検索が可能です。キーワードでの検索のほか、発行日や面名での絞り込みなどもできます。

新聞の検索

検索上の注意

- 資料の形態等、条件によっては、該当した資料を閲覧できない場合があります。ご了承ください。

メニューへ 利用方法

検索実行 検索条件クリア

検索条件

項目間の検索条件 AND OR

検索範囲 全部選択

新聞名

新聞の形態 全形態 原紙 マイクロ 縮刷版 複製・複製版 電子資料 その他

出版者もしくは編者

出版年 年 ~ 年 ●元号対照表を参照

出版国名

出版都道府県名

言語名

ISSN

国立国会図書館請求記号

<聞蔵Ⅱ・KDについて>
学内のPCからのみ利用可能です。また、利用が終わったら忘れずにログアウト!!

全国新聞総合目録データベースでは、新聞や新聞の所蔵館の確認ができます。どこからでも、ご自宅のパソコンからでも利用が可能です。

KD(カーデー)は河北新報のDBです。1991年8月1日から前日の紙面まで検索が可能です。エキスパート検索では、キーワードでの検索のほか、発行日での絞り込みなどもできます。

第15回 学生の読書室 ～私が選ぶこの一冊～



『小さい“つ”が消えた日』

(ステファノ・フォン・ロー [文]、トルステン・クロケンブリック [絵]、三修社、2008年)

初等教育教員養成課程 社会コース3年：畠 菜子

世の中にあるものすべてに、魂が宿っている。文字も言葉も、その例外ではない。自慢好きの“あ”さん、優柔不断の“か”さん、一番謙虚な“ん”さん……。この物語の主人公、小さい“つ”は、五十音村で唯一口をきくことができない、男の子。他の文字たちから口がきけないことをからかわれた小さい“つ”は、村から姿を消してしまった。次の日、世界中の小さい“つ”がなくなってしまったからさあ大変。「訴えますよ」が「歌えますよ」、「鉄器をつくる」が「敵をつくる」に。意味が通じなくなる言葉があふれ人間たちは困ってしまった。他の文字たちはなんとか小さい“つ”を連れ戻そうとするが……。

どんなに小さい存在に見えても、社会には必ず役に立っていて、必要のないものなんてない。私たちのかけがえない個性を大切にすることを、この物語は改めて教えてくれる。かわいらしいイラストに癒されながら、自分を振り返ってみてはいかがだろうか。



『はせがわくんきらいや』

(長谷川集平著、すばる書房※、1981年)

特別支援教育教員養成課程 聴覚・言語障害教育コース4年：横山 茜
聴覚・言語障害教育コース4年：佐藤 未奈美

はせがわくんは障害のある男の子。はせがわくんは他の友だちよりも苦手なことが多く、はせがわくんと同級生の男の子は、自分と同じようにできないはせがわくんに不満を感じています。この本の中では「ぼくは、はせがわくんがきらいです。はせがわくんといったら、おもしろくないです。なにしてもへたやし、かっこわるいです。」とその子の素直な気持ちが表現されています。

多くの小学生はこの絵本に登場するはせがわくんの同級生のように戸惑いを感じるのではないのでしょうか。けれど『はせがわくんきらいや』と言うその子ははせがわくんの傍にいて、困ったときは助けてくれる存在でもあります。この物語に登場するはせがわくんは作者の長谷川自身であり、その子との出来事を本にまとめたことから、その子の存在が長谷川にとって支えとなっていたことが窺えます。

本の中に登場する男の子やお母さん、先生の言葉や係わり方から学ぶことが多く、特に子どもとかわかる機会の多い皆さんに読んでいただきたい一冊です。

※すばる書房版は現在絶版となっています。
現在、ブッキング（復刊ドットコム）から同書が刊行されています。

『星の王子さま』

(サン・テグジュペリ著 岩波少年文庫、2000年)

特別支援教育専攻特別支援教育専修1年：櫻田翔子



この本はある日サハラ砂漠の真ん中に不時着した飛行士が、不思議な男の子に出会う物語です。児童文学小説として有名な本作ですが、決してその枠にのみ収まるような作品ではなく、王子様の出会い一つ一つに深いメッセージが込められています。私がこの本を初めて読んだのは、高校一年生のときでした。当時は物語の内容や作者の意図を読み取ることができず、自分の心に何かよく説明できないような気持が残る作品であるという印象だけが残りました。しかし、再び手にとって読んだとき、様々な出会いの中で交わされる会話の中から、王子様の言葉一つ一つが胸に響いてきました。大切なものに気付くことや、何かを愛することについて深く考えさせられました。

この本は大人がつい忘れがちになってしまう大切なことを教えてくれる本です。そして読むごとに新しい発見があり、その大切なメッセージが心に刻まれます。一度と言わず、何度も手にとってページをめくってほしい一冊です。

『日本人と日本文化』

(対談 司馬遼太郎 ドナルド・キーン、中公文庫、1996年)

中等教育教員養成課程 社会科教育専攻3年：本木成美



『たおやめぶり』というのは、けっしてシンの弱さを言うのじゃなくて、むしろシンの強さを言うのですけれども、愛情などの表現の仕方、原形日本人といいますが、もとの日本人というのは、どうも「たおやめぶり」という匂いが強くします。」(第一章より)

雄大な構想で歴史と人物を描き続ける司馬遼太郎と、日本文学の優れた研究者であるドナルド・キーン——日本文化を愛する二人が、「たおやめぶり」と「ますらおぶり」、忠義と裏切り、金の世界と銀の世界など様々な視点から日本文化の本質に迫る。

この本を初めて読んだ時、それまで部分でしか見えていなかった知識が、ぱっと照らされ全体像が明らかになったような、視界が拓けたような感覚をおぼえた。独自の見地から事象を捉え直す歴史認識はどれも斬新で、同時に改めて『日本』に対する興味を抱かざるを得なかった。国際化が進む今だからこそ、手に取る価値のある一冊だと思う。

【原稿を募集します】

ここは学生のみなさんにお薦めの本を紹介してもらうコーナーです。みなさんからの投稿をお待ちしています。以下の必要事項を記入の上、いずれかの提出方法をお選びください。

■必要事項

- ・専攻・学年・お名前・連絡先
- ・紹介したい本のタイトルとその著者名・出版社
- ・紹介文(400字程度)

■提出方法

- ・メールの場合は toshokan@staff.miyakyo-u.ac.jp まで
- ・USB等の場合は 図書館カウンターへ

■注意事項

- ・こもれび次号は3月発行です。
- ・原稿はこもれび編集委員会で選定の上、掲載します。
- ・採用された原稿は図書館ホームページにも掲載されます。

『私と図書館』

図書のオーラもしくは雰囲気

木下 ひさし

国語コース1年生の講義の1コマを使って、図書館ガイダンスを行っていただいた。今春着任の私もまた1年生なので当然一緒に参加した。昨今の図書館は、私の学生時代に比べると格段に進歩、進化を遂げている。一口にいうならば情報センターになっているのである。もちろんかつてもある意味で情報センターであったが、その情報の発信量は格段に増加している。さらに、開館時間も長くなりまさにセンターなのである。これを利用しない手はないとつくづく思った。

私はあまり真面目に勉強した学生ではなかったが、図書のずらりと並ぶ雰囲気は好きだった。権威とかそういう類のものではない、学問の府らしい大学をそこに感じ、「やっぱ勉強しよっ」とか「本読まなくっちゃ」と思ったものである。思っただけで終わったことも多かったのだが。

そんな学生でも、「蔵書カード」を繰ったり、書庫にもぐったり、あるいは国会図書館に本を探しに行くと、いっばしの研究者になった気分であった。気分が終わったことも多かったのだが。

やがて小学校教員となり図書館(室)は子どもとともに利用することが多くなった。授業の準備ができていないときは、即図書室で読書。と、なんとも情けないこともした。それでもけっこう子どもたちは図書室が好きだった。進んで行こうとしない本嫌いの子も、無理やり連れ込む?とけっこう本を手にするのである。これも図書(室)の雰囲気の為せる技かもしれない。

そう、雰囲気というのも大切なのだ。そこに本が存在している、並んでいるという雰囲気。情報センターとしてPCがあるのはよい。居ながらにして他の図書館で検索できるのもよい。けれども、やはり本が並んでこちらに迫ってこなければ図書館ではない。取り出すべき情報が確実にそこに物として存在することの意味はいつになっても変わらないのではないだろうか。

つらつらと背表紙を眺めながら、かつての不真面目な学生は真面目にそう思うのである。

(国語教育講座)

私と図書館

神谷 拓

宮城教育大学に着任して3ヶ月が経過しようとしている。私は、大学、大学院(修士)、研究生、大学院(博士)、そして就職と、すべて異なる大学に在籍してきた。ちなみに、宮城教育大学は7校目の大学である。

それぞれの大学の図書館には思い出がある。まじめな学生ではなかった大学の時には、図書館が「憩いの場」だった。夏は涼しく冬は暖かい、快適な空間だった。大学院生や研究生になると、文献検索とコピーの繰り返し…辛い「修行の場」だった。就職してからも、たまに「修行」をしているが、かつてのようには時間が取れない。しかし、ふらっと行くと、まだ読んでいない資料を見つけることができる。かっこよく言えば「出会い」の場である。あらためて図書館は、色々な顔をもっているのだと感じる。

私事になるが、昨年2月に、愛知県豊田市足助で、おそらく日本初の民間のスポーツ図書館(NPO法人)を作った。その名も『体

育とスポーツの図書館』。会費、寄付、そして中心メンバーの「持ち出し」で始めたユニークな図書館である。志は高いが、お金は苦しい。そのため、開架している本は、各学校の先生が授業で使用してきたものがほとんどである。そのため、貴重な図書や、マニアックな本も少なくない。他にも、学校の先生が書いてきた「授業の実践記録」も保管している。このような資料を保存している図書館は、他にないだろう。

この図書館は、これからどのような場になるのだろうか。ささやかな楽しみである。興味のある方は、スポーツ図書館のホームページ(<http://sportslibrary.web.fc2.com/>)やブログ(<http://sportslibrary.blog65.fc2.com/>)をみていただきたい。寄付、大歓迎!!

(保健体育講座)

『私と図書館』

ロシア図書館事情

田中 良英

西洋史を専門としつつも恥ずかしながら訪れた国は多くないが、1999～2001年の2年間、ロシアに留学した経験は自分にとって極めて大きい。今や世界的有名人であるプーチン首相も、当時は「何者？」と訝しがられるほどに無名で、首都モスクワも依然混乱の只中であつた。とはいえ、ロシアの図書館の特徴はそうした混乱のみに起因するものではなく、恐らくソ連期から続く伝統の産物だつたと思われる。

私が主に利用した国立の図書館の場合、入り口には小型の自動小銃を構えた警備の警官が控えているのが通例で、それだけでも慣れるまでは若干の恐怖感を覚えたものだ。また入館前には「ガルデロープ（英語のワードローブと同義）」と呼ばれる荷物預かり所に鞆・外套などを置いていかねばならず、そこが満杯になっていると入館が認められない。それゆえ図書館の玄関前で行列を作り、利用が済んだ人々が出てくるのを待たされた経験も随分あつた。

こうした国立図書館の場合、館外貸出は基本的に不可で、読解力に劣り滞在期間が限られている我々としてはコピーに頼る機会が自然多くなるが、セルフのコピー機などというものは館内

に存在しない（ちなみに当時は街中でも皆無だつた）。大抵は我々が割り当てられた読書室とは別の場所にあるコピー受付所まで資料を持参し、複写を依頼することになるのだが、読書室から資料を持ち出すだけでも別個に書類を書かねばならない。その後、受付所前に並ぶ際にも、時には「俺、お前の後ろね（＝だから戻ってきたら入れてくれよ）」などと全く面識のない私に言い残して、行列を離れる輩も出てくる。彼（あるいは彼女）がすぐ戻ってきてくれれば良いものの、私の受付の順番が迫って来ても全くその気配がないと、「このまま受付を済ませて、いなくなっても大丈夫なのか」などと、本末転倒にもむしろこちらの方がやきもきさせられるのだつた。

その他、頼んだコピーが出来上がるのに時には1週間近くかかるなど、何かと使い勝手も悪かつた一方で、今や懐かしい気持ちも強い。なお滞在時は日本と比較してのだらしなさが気になったものだが、いざ帰国してみると、日本も社会性の点では他人のことを笑えないと、いろいろ実感させられた点は最後に付言しておきたい。

（社会科教育講座）

私と図書館

日比野 裕 幸

突然私のポストに「私と図書館」についての原稿依頼がありまして随分悩みました。

実は、私は図書館をほとんど利用していません。ましてやこちらの大学図書館には入り口に一步踏み入れて、授業の教材として利用したいDVDと楽譜の購入希望用紙を提出したのみです。

図書館を利用しない理由は、本は自身の持ち物でないとなんとなく嫌なのです。潔癖症とかでなく、図書館の物や、人からの借り物であるとうっかり汚すといけない事や、返却期日が決まっていたり、早く返さなくてはと焦ると、すっかり読む気が失せるのです。

CDやLD、DVD、ビデオなども自宅で好きなようにながらで聴いたり見たりしたいのです。大体、自分が興味を引く物が無い、あつても何処にあるのかわからない。特に音楽については、有名な物しか無いのでつまらないのです。いや、有名なのは素晴らしいのですが大体がすでに聴いてしまっているのです。

しかし、時代は進んでいるのですね、この度ナクソス・ミュージック・ライブラリーとの契約で、私のような音楽オタク、いや音楽を仕事にしている者も満足できる膨大な音楽資料が手軽に聴けるとするのは、仮契約とはいえ本当にうれしいことです。

あとは、これらを自宅で聴きたいのですがねえ。本も然りです。iPad、iPhoneあるいは携帯で手軽に図書館ライブラリーを利用できるとよいと思います。

ひょっとして可能なのですか？

あれ、今、ナクソス・ミュージック・ライブラリーの契約が切れてしまったようです。（7月7日現在）是非、今後もご検討よろしくお願ひ致します。

あ！今思い出しました。東京でフリーミュージシャン時代、時間があつてお金が無い夏の暑いときに、良く涼みに図書館に行きました。あの時あそこは天国でした。

（音楽教育講座）

夢が叶って

堀口 美智子

これまで何度か自宅を引っ越す機会があったが、私が新居に越してすぐチェックするのは、公立図書館の場所だった。子どもの頃から本好きだったので、図書館の隣に住んで自分の書斎のように利用できたらどんなに素敵だろうと、長年思っていた。宮教大に着任してキャンパス内の宿舎に住むことになり、その夢が叶った。「宝の山」の大学図書館を自分の書斎のように利用でき、様々なジャンルの本が無料で読み放題、こんなに嬉しいことはない。

最近では立派な鉄筋コンクリートの公立図書館が増えていますが、私が中・高生の頃に通った馴染みの図書館は、薄暗い木造の小さな公立図書館だった。駅前の大通りから路地を一本入っただけのその場所は、都会の喧騒から離れ、深い緑に囲まれた異空間だった。時間があると立ち寄って、気ままに目についた本を手に取り、手に取る前には予想もしなかった新たな「知」との出会いに感激したりしたものだ。

本の魅力を知ったのは、小学生の頃、親が買い揃えてくれた「少年少女世界文学全集」（講談

社）に夢中になったのがきっかけだ。難しく理解できない部分は、読み飛ばしたり勝手に推測したりして読み進んだものだ。子ども時代にこの全集に魅せられた大人は、かなり多いと聞く。挿絵も少なく字も小さい、厚くて重いこの文学全集に、なぜこれほど多くの子どもたちが魅了されたのだろう。カラフルな絵がないからこそ、子どもたちは想像の翼を広げ、文字の向こうの広い世界を自由自在に飛び回ることができたのではないかな。ビデオやゲーム、通信機器などない時代であったからこそ、迷うことなくまっすぐに、本の世界にアクセスできたのかもしれない。この文学全集が、強い好奇心を育み、未知の国やことがらへの興味のドアを開いてくれたように思う。

宮教大の図書館は快適な空調と採光で配慮され、かつて私が馴染んだ古くて暗い木造の図書館とは異なってかなり立派だ。夢だった「自分の書斎」を持ってた今、「宝の持ち腐れ」にならぬよう、まずはどこから「宝の山」を切り崩していこうかな…と楽しみである。

(家庭科教育講座)

本学教員等著作寄贈図書一覧（平成22年4月～平成23年3月受贈分）

高橋孝助（学長）

- ・中国近現代史 上/下 姫田光義 [ほか] 著 共著者；高橋孝助 東京大学出版会 1982年
- ・東アジア近現代史 上原一慶 [ほか] 著 共著者；高橋孝助 有斐閣 1990年
- ・上海人物史 日本上海史研究会編 共編者；高橋孝助 東方書店 1997年
- ・卒業論文を書く：テーマ設定と史料の扱い方 歴史科学協議会編 共編者；高橋孝助 山川出版 1997年
- ・上海職業さまざま 菊池敏夫、日本上海史研究会編 共編者；高橋孝助 勉誠出版 2002年

井柳美紀（社会科教育講座）

- ・ディドロ多様性の政治学 井柳美紀著 創文社 2011年

田端輝彦（数学教育講座）

- ・小学校算数科における比例的推論の教授・学習に関する実証的研究 研究代表者 田端輝彦 宮城教育大学 2009年（科学研究費補助金基盤研究C研究成果報告書 平成19年度～21年度）

石澤公明（理科教育講座）

- ・湿地環境と作物：環境と調和した作物生産をめざして 坂上潤一 [ほか] 編著 共編者；石澤公明 養賢堂 2010年

堀口美智子（家庭科教育講座）

- ・児童福祉を学ぶ：子どもと家庭に対する支援 松本園子、堀口美智子、森和子著 ななみ書房 2009年

菅井裕行（特別支援教育講座）

- ・はじめての特別支援教育：教職を目指す大学生のために 柘植雅義 [ほか] 編 共編者；菅井裕行 有斐閣 2010年

島野智之（環境教育実践研究センター）

- ・土壌の原生生物・線虫群集：その土壌生態系での役割 日本土壌肥料学会編 共編者；島野智之 博友社 2009年
- ・生物学辞典 石川統 [ほか] 編集 共編集者；島野智之 東京化学同人 2010年

編集委員 附属図書館運営委員 菅井 裕行（特別支援教育講座） 堀田 幸義（社会科教育講座）